

AAPPS 2nd Workshop on Women in Physics 報告

2010年11月13-14日の2日間にわたり、上記ワークショップが上海交通大学 (Shanghai Jiao Tong University) の Minhang Campus において開催された。

日本からの参加者は、日本物理学会から田島節子 (大阪大)、松尾由賀利 (理研)、笹尾真実子 (東北大) の3名と応用物理学会の渡辺美代子さん (東芝) の総勢4名であった。

ワークショップは Wu Ling-An さんの司会で、上海交通大学 Zhang Jie 総長の開会講演で幕を開けた。Zhang Jie 総長は、「女性は天を支える2本の柱の1本である」という言葉を引用し、女性物理研究者活躍の重要性を述べた。

13日の午前中と午後前半は Plenary Session で、オーストラリア物理研究所 (CSIRO) の Foley 所長、笹尾 (東北大)、Mehta さん (印度ボーズ研究所)、Butcher さん (英国 IOP)、Tsu-Yi Fu さん (台湾)、Nguyen さん (ベトナム) 等が、それぞれ自身の経歴や経験を基に女性物理学者が育って行く上での諸問題の提起と分析を行った。笹尾は、日本において最近の統計に現れる現象として、物理や物理を基礎とする工学をとる学生の中での女子学生の割合が理系の中でも特に低い点と、博士号取得者の女性比率の減少がさらに加速して行く点を取り上げ、いくつかの分析を行った。前者については母から娘へ

暗黙に伝えられるメッセージの影響について、後者については「育児は誰の責任か」という考え方の変遷、および日本の大学や研究所の人事の中に現れる考え方を紹介した。また、ゲスト講演として中国の若手物理研究賞を受賞した Xiaoying Li (Tianjin Univ, China) さんが、「Fiber based nonclassical light sources and their applications」の記念講演を行った。

13日の午後後半には、2つの平行セッションが開かれた。「女性研究者ステップアップにおける“Leaky Pipeline”と“ガラスの天井”に関するセッション」では、松尾 (理研) が物理学会の男女共同参画推進委員会活動報告を行った。2つ目の課題「女子生徒をいかに物理に引きつけるか」というセッションでは、中国の女性研究者から、子を持つ母として、受験勉強の時間を割いても物理オリンピックや実験コンテスト等に参加させていかに良かったかと経験が出された。中国では、理科教員の授業コンテストも行われていて、優秀賞をとった授業はすべて生徒に実験をさせていたという話であった。

第2日目の Plenary Session では、渡辺美代子さん (東芝) が2回にわたる大規模アンケートに現れる女性物理研究者の現状について報告した。また、北京工科大学の Sui Manling さんは、

中国の大学での定年年齢が女性のほうが5歳低いという問題について、AAPPS の WIP (Women in Physics) ワーキンググループ議長で、現在は韓国の国会議員でもある Youngah Park さんは、なぜ政治の道を選んだのかを話された。

続くパネルディスカッションセッション「いかに雇用や研究資金等の面で男女平等を実現するか」では、田島 (大阪大) が、働きすぎの日本の大学人の現状とその中で女性大学人の抱えている問題について、学内アンケートの結果に基づいた報告で口火を切り、続いて南京大学の Peng Ru-Wen さん、上海交通大学で中国のポストク事情を調査している Andrea Stith さんが、それぞれ問題提起を行った。

最後のセッションでまとめを行い、以下の内容を全会一致で採択した。

多くの国の政府は、経済発展が科学技術革新の上に成り立っていると認識しているが、科学技術の研究は男女参画を含む多面性を担保してこそ発展し、より良いものとなる。ワークショップの参加者は、そのために活発な議論を行った。その結果、以下の4点の要望 (recommendation) をまとめた。

1. AAPPS においては、今後も WIP ワーキンググループの活動を支援していただきたい。
2. 具体的には、各学協会はほぼ毎年開催される WIP ワーキンググループ活動に各国の代表を派遣していただきたい。また、物理学の学術的発見や技術革新のため、女性研究者の躍進とそのための男性研究者のパートナーシップを支援していただきたい。
3. 各学協会は、各国の関連組織と協力の上、各レベルの教育機関、政府、産業界に働きかけ歩調を合わせて、男子生徒にも女子生徒にも物理の魅力を知ってもらう活動を通して、女性研究者の割合を増やすよう努めていただきたい。
4. この内容と次回の会合予定についてはネット等で広く知らせる。

(文責：笹尾真実子、田島節子、松尾由賀利、

2011年1月20日原稿受付)



図1 第2回 Women in Physics ワークショップが上海交通大学で開催された。オープニングセッションでは、永宮正治氏ら AAPPS (Association of Asia Pacific Physics Societies) 理事も参加した。